

若者がいるって、それだけで素晴らしい！？ ～地域でのワークショップの裏話～



自然・環境マネジメント研究部 環境計画研究グループ

福本 優

「若者がいるだけで、まちは良くなる？」訳はない。

「若者がいてくれれば、まちは良くなるのか！」とタイトルを見ると感じるかもしれませんが、しかし、そんな都合のよい話はありません。若者がいると雰囲気明るくなるし、街が賑やかになったような気がしますが、やはりその効果は一時的です。もちろん、街が良くなる必要な要素なのですが、それだけで、持続的なまちの活力とはなりません。よね？



▲若者がいると、本音がこぼれる。



▲学生との事前勉強会。学生にも学びを提供することは不可欠

「若者がいるだけで、場は良くなる！」ことが、まちを良くする第一歩。

若者の最大の魅力は、「たくさんの知らない事がある。」ということです。様々な常識に囚われず、疑問に感じたことをまっすぐ質問することができます。これが、ポイント！

地域でのワークショップ等の話し合いを行う時に、課題を理解している人たちが集まると、その課題の壮大さに圧倒されて、なかなか解決策や課題の根にある原因の特定に至らないことが、しばしばあります。

そんな時、若者のまっすぐな「なんでですか？」という問いは、参加者に突き刺さるのです。私は学生さんと一緒にまちづくりの現場に立つことも多いのですが、学生さんには学びを、地域にはまっすぐな疑問を届けることが、結果として、まちを良くする最初の一步になることが多いなと実感しています。